

2019年1月

浅き冬手水に鳥の遊び来て 冬の湖鴨集まりて急ぎ ^た 翔つ 山茶花や急ぎ咲き散り路を染め 温室で実を結ぶ花江戸の青 枕辺に感謝の俳句母の棺 空晴れて今日も寒そう胸張りて 長生きし余生を案じ晦日そば 迷いつつ今年も送る年賀状 街路樹や初東雲に黒々と 初便り生きてる証筆にのせ 年迎ふ猪子石社に目覚めけり 初日の出はるかに富士の渚園 幼なじみたった二人の新年会 六十年年賀の中の友でいる	両陛下寄り添う様のほのぼのと ほっこりと香る煮 ^メ は亡母の味 下駄鳴らし湯煙誘う足湯かな 雑煮餅丸餅四角餅文化の差 お雑煮に夫婦仲良く向かひ合ひ 飾りとて面倒がりてせぬ齡 七草も喰わずに通す歳になり 道路端みかん並べて大繁盛 御節箱色とりどりで目がうつる 離脱して行き先見えず四苦八苦 サラリーマン川柳若さが溢れてる ボーイング見てロッキード思い出す マジックショーみんな福々昼の膳
--	---

2019年2月

沈む日に吾が身重ねて見る川面 老いてなお切り干し大根に余念なく 日足伸ぶ子等の歓声こだませり 初春に乗るはまさかの救急車 大根に急かされきざむからっ風 ほのぼのと明るくなりき春の朝 凍蝶や悲しいまでに身をとじて 夫遺す水仙咲きて和む朝 牡丹園香りほのかに頬を撫で 春の雨小鳥遊びて苔みどり 寒明けて梅が主人と咲きほこり 春の朝ひんやり流る風の音 立金花浜松の冬に花咲かせ 大寒波初めての事故我おそう 佇みて寒さ去る日待ち佐鳴畔	京の旅関ヶ原止め新幹線 アラ古稀団卓を囲めば認知予防 星月夜病院の庭糸杉も 相席の笑顔が紡ぐ糸のあり 「ボケ防止」これほどまでに人集う ノルディックまた新しき友加え 睨み合い平和を崩す貧富の差 思いのまま言い合う友いて嬉しき日 日韓不和次々難題恐ろしく 隣国は太閤以来の恨みあり シニアでもスマホの指の良く動く ぶらんこに立ち漕ぎ高きk男の子かな 便利さに心のゆるみ災いあり 疎開っ子鎌使えぬといじめられ 疎開っ子格好良くていじめら
---	--

2019年3月

落ち椿歩道に数個立ち止まる 寒明けていかり肩おれ玉はずむ	春の雨桜を散らしにくきかな 少年棋士厳し中に笑み優し
---------------------------------	-------------------------------

<p>梅開き土曜日曜街散歩 友よりの手作り干柿噛みしめて 春の雲ふわり無心で仰ぎ見る 真青なる天にあふるる枝垂れうめ 薄紅の山ふくらめて梅の花 梅が香に武士語るや関ヶ原 春雨に濡れて嬉しやノルディック 桜草種の飛ぶ先教えてる 北国は梅桃桜一気咲き 春雨をにくむ愛犬散歩待つ 齒に沁みる冷たき水の温む朝 植込みの葉先のすずめ目と目合い</p>	<p>桜散る男ショーケンサングラス 新元号やめてほしいな四月バカ 手許不如意待たれる月の半ばかな ねぶた絵に思い巡らす水滸伝 国会で手振り指差す道化役 よく笑う元気印のお友達 音楽の教師厳しい目で教え 風さそう桜の下も我鼻炎 梅酒瓶ポット並べて歓待し 買物でシステム事故か印字され 車来る思わず踏んばる道の端 顔を剃る折りなす皺に手が止まる</p>
---	---

2019年4月

<p>旅立ちを祝ふ人らや風光る 川根路の雲に溶け入る山桜 桜坂振り返りつつ花の人 春四月花冷え続く佐鳴畔 そつと見る小鳥の水浴び春の庭 いつの世も時は移ろい春は来る 咲いてます桃の濃い朱ここにいる お似合いね淡き藤色ヘアカラー 貴方らしくらしく在ってと風は追う 水入りの田植え真近し鷺の群れ 夏野菜実る夢見て苗植える 生家には祖父の育てた牡丹咲き 風鈴のやさしく揺れる若葉風</p>	<p>口紅をそつと一筆は墓参り 春深し家々の庭花増える 春突風花びら散らし道狭し 祖母と母我も歩みたる姫道中 レンガ積むでも難しいチャーチルさん お隣りも同じ建売高級車 自己紹介趣味と病気をひとつずつ 元号が変ればここぞサギがふえ この歳で脳力アップ五七五 桜の木どこから出たか「季節の木」 合コンで「東大よ」と言える世の中に ほほえみの国より詐欺の電話来て 麻雀す健康的な頭脳戦</p>
---	--

2019年5月

<p>利休忌や音なき雨の庭染むる 残花落ち千躰地藏の肩の辺に 寺庭の侘助一輪春惜しむ 新御代にふさわし笑みの雅子様 感無量四つの時代令和に生き 奉祝のテレビ見続け一日暮れ 遠くよりかわずの合唱風に舞い来 新緑のトンネル抜けて白き峰</p>	<p>行く時代を名残惜しむや春時雨 シニア割財布の紐のついゆるみ インプラント歯アンドロイドの一步かな 出れば天国出なけりや地獄五七五 見舞う人看護する人腰曲り 百福絵図見つめる笑顔に福来たる 孫が来る財布の中身確かめて 潮猪狩又の中止で人まばら</p>
--	--

萌黄なる林を過ぎて水芭蕉 次々と狭庭彩どる花に酔ひ 新緑の夢多き広場人皆無 男女共令和の空に凧が舞ふ	車こそ俺の命と暴走す 逆さ富士池に聳えて客招く 平成も今日で終りと床磨き 退位する丸き陛下の背に涙
---	--

2019年6月

丸九年俳句記念日梅雨の頃 掘りたてのじゃが芋ころり夏兆す 実家よりの大地の恵み夏野菜 天空に続く褥の芝桜 青しぐれ秘佛の謂れ僧に聞く 黒南風に読経の僧の透る声 目覚め嬉し糠漬け吟味夏野菜 あじさいは彩り添えて今盛り 狭庭には風の道ありひと休み 花療法知ればお世話にのめり込み 紫陽花や狭き庭先き毀れ咲く 木陰坂手押車の老夫婦 田植後稲の合間を虫泳ぐ	梅雨入りで妻の頭に角が生え 高齢者出るは出るはの踏みちがえ 朝乃山郷里に帰り皆笑顔 戸惑いのセルフサービス老いし歳 令和文字とめるかのばすか迷いつつ 着信が一回もない日の平和 遺影用暗い顔だと却下され 白々とまた匿しけり伏魔殿 晦まして見せざりければ玉手箱 出しゃばれば元も子もないわしゃイラン 拉致の声親の思いに胸痛む 義理果たすちよつと豪華に土産もの 毎週の雨で流れる蛍狩り 爆売りにならず終わるか増税前
--	---

2019年7月8日

穏やかに令和二ヶ月梅雨夕焼 催涙雨空を見上げる母と娘と 墓参り我より先に蝸牛 亡き人を連れて歩きし遠花火 闇に咲く花火に託す湖の浄化 炎熱のひと日の終わり水を撒く 虫の音が網戸を越ゆる涼けさや 三味の音リスも聞き入る夕べかな 川涼み子等の雄叫び水に消え 厚手物まだまだ湿り抜けきれず 扶桑の花音なく開き夏迎え 広告の品物変わる梅雨の明け 笑顔です勝負のあやも渋谷日向子 顔認証機械相手の空しさよ	父母も牛も居るなり青畳 雨上がりえさ待つ雛や夕日落つ 出番なき団扇やっぱり出しておこ 笹ゆりのかすかに揺れし風の音 せせらぎにしばし涼とる蝉しぐれ 遠来の坊ちゃん団子味やさし 蝉の声夏の暑さを掻き回す 時鳥飼っているかと聞かれたり 本売りに破れんほどの紙袋 小綺麗な無人駅には座布団も 梅雨寒で心の奥までカビが生え あかさたな立派な外郎還元君 改憲派大喜びの文の策 三百と六十五日日曜日
--	--

<p>降り止まぬ雨はなけれど振り過ぎだ 百均で何でも買えと孫に言い 近いのに海の向うの遠い国 かんぽ阿呆阿呆商売詫どおし 季語苺心もとなく萎みける 純ちゃんに虚仮にされても恥知らず 脳活でボケない長寿を楽しめり</p>	<p>また事故か高齢無縁を祈るのみ 時を経て騒がしさ増す終戦日 節電の扇子うちわの出番なし 明日からは酒を止めると大ジョッキ 連勝でネット麻雀のめり込む 牛乳瓶ホットパンツの配達員 夏バテの花の世話焼き熱を出し</p>
---	---

2019年9月

<p>点滴の水滴眺め一夜明け エム・アール病魔を探すおと聞きつ 突然の歩行不能今むなし 杉木立こぼれ日の道先深し そよ風と我と戯むる赤トンボ 秋彼岸僧侶の車外車かな ゴーヤ伸ぶ極暑知ってか二階まで 秋茄子の糠漬け旨しつまみ喰い 涼風や老身にやる気連れてくる すだれ越し仰ぐ名月風清か あかときの庭に光るや白木槿 さざ波にひとすじ伸びる晩夏光 ひそまりて暮るるキャンプ地夏の果て ルンバの声すぐに助けにいくジージ</p>	<p>ラグビーの選手の日本語ほほえまし 夢の中母が似ているサザエさん セクシーなシーオーツーに惑わされ セクシーな環境どうしましょう 進次郎カリブの女にかまされて 秋の昼大きな欠伸ひとつ出て 今朝の秋落葉が少し多くなり 秋の宵少し涼しく虫の音に 終活の話だけれど猫背中 五十年経っても凜と恩師の背 保冷剤早く罹災地冷蔵庫 教えてよ八十路の坂の登りかた まな板の重さ気になる老いの坂 傘寿をば相合傘で迎えたい</p>
--	--

2019年10月

<p>落葉掃く四季の移ろい今ここに ふじばかま育てアサギマダラを待ち続け 酔芙蓉花火のさまに枝を張り デッキから遠き山々澄み渡る 夜の海航路構わず演奏会 集中雨土手を破壊し人襲う 大雨の去りてまぶしき秋の天 けいこくの秋を拾ひつ深呼吸 水に彩風にも彩の紅葉狩 山川の清き流れに遊ぶ子ら ひぐらしの鳴く林道に入りけり 山の端に名月出づる露天風呂</p>	<p>「ぼこりたい」思わず爆笑次いける 心ひとつぶつかり弾きノーサイド 感動に言葉いらぬW杯 台風で堤防破壊階段泥 歩こう会アルコール会と聞き違え 孫帰り夫と二人茶漬けする ラグビーのラの字も知らずにわかファン 天皇の即位に虹もお出ました 何か変季節外れに桜咲く 平安の絵巻そのまま雅子さま スポーツの秋テレビの前に座り込む 大昔の着物で仕立てるタペストリー</p>
--	--

芦ノ湖のすすきの原でかくれんぼ

身の丈は身の程知らずでございます

2019年11月

久の慈雨椎茸あちこち顔を出し
布草履編む手に母の面影が
ハイキング秋風寒く齡かな
どの柿も今年は甘味遠退ける
風そよと花がら摘みし頬にキス
紅葉背に信楽狸の福々し
新御代の祝賀御列菊日和
秋葉宮鳥居眩く天高し
秋空に明治の残像ふつふつと
空燃えりビルの大群目の前に
百葉の長と言いては今宵また
皇后の笑みに国民安堵する
ぬすみ酒どんな酒より美酒の美酒
桜見て首相と握手の黒歴史

PAYPAY で支払いますと震える手
最高の土産話は失敗談
なすの棘指に刺さった虫眼鏡
人生のシナリオよりも今日のこと
そーろそろ噴火しそうな地球の素
誰か来た？問う先見れば夫と猫
止めるってそれ違法の裏返し
何気なく眺む二の腕風紋の如
何事もよいしょよいしょで日が暮れる
そっと来てそっと汚してそっと去る
さっと来てささっと入れてさっと去る
ふわっと来ふわっと止まり蜜を吸う
さらさらと降りさらさらと舞う落葉

2019年12月

寒さ来て健気に咲ける白い花
有難し大根白菜軒下に
落葉背に登る階段八十八
旧友来たり重きまな板音はずみ
山あいの子の家の明るし柿すだれ
ホテル窓熱海の秋をひと掴み
荒波の錦ヶ浦やそぞろ寒
ガラス越しカーテン開き温くし冬
競い咲き花の賑わい春を待つ

民の金うまく使うが麻生流
温暖化付を廻して大威張り
計る度上がる血圧誰のせい
子は偉い丑寅連れて大将だ
霜降りの値段一桁間違えて
返納を決めてメモするバス停で
キャッシースいつのまにか散財す
イトイン何も買わずに雨宿り
何しても負けが込み入り老感ず